

報知旗争奪第13回日本少年野球関西さわやか大会規定

1. チーム登録選手は11名以上25名までとする。
2. 出場選手は試合当日現在、連盟への登録済の者とする。
3. 審査書は令和3年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手は20名以内、およびチーム責任者、監督、コーチおよびマネージャーのみがベンチに入ることができる。但し、各種登録証（チーム責任者、監督、コーチ）および審査書を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチに入ることが入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間に合った場合は審査の上ベンチ入りができる。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。チーム責任者不在の場合は試合できない。
5. 1チームで2チーム以上チーム登録する場合は、監督、コーチ、マネージャーの登録が重複してはならない。（代表は、その限りではない）また、試合当日は関係するチーム代表（チーム責任者）が必ず選手を引率することとし、ベンチ入りしない代表（チーム責任者）もスタンド等で観戦するなど常に待機すること。
6. 組み合わせの若番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
7. 監督（背番号60）、コーチ（背番号50）は選手と同じユニホームを着用すること。（合同チームは自チームのユニホームとする）
8. 試合開始60分前に試合会場に到着の報告をし、所定の審査を受け、直ちにオーダー表5部を本部に転出しなければならない。
9. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
10. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
11. 試合方式など
 - (1) 各試合は6回戦でおこない、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングに入らない。（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合終了とする）
 - (2) 4回終了後（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回終了後時）7点差の場合コールドゲームとする。
 - (3) 6回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長7回（決勝戦は9回）あるいは試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
12. (1) 投手は1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。試合は6イニング制で投手投球回数はレギュラーとする。
 - (2) ダブルヘッダーでの連投は認めるが、投球回数は7イニング以内とする。ダブルヘッダーに登板した投手および連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）および3日間連続で登板した投手は、翌日投手または捕手として試合に出場することはできない。
 - (3) 例えば、1試合目で5回投げた場合には、次の試合で2回投げることができる。ただし、端数回数(0/3回・1/3回・2/3回)は切り上げで1回とする。端数回数の0/3回は、新しいイニングに入って一死もとらずに降板する場合を示す。
13. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない）
 - (2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回となれば、自動的に投手は交代になり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
 - (3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
 - (4) 指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。

1イニングで同一の投手に対する指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代とする。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15. 監督またはコーチが投手に指示するときはマウンドのところで行う。(ベンチから駆け足で)
16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その位置から投手に返球する。また、打者が攻撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手が走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロットガード、ファールカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロットガードは除く)】2組を備えること。(合同チームは自チームの色)
20. ユニホーム、バット、グラブ、スパイク等は連盟指定業者のものに限る。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに規定道具を試合、練習を問わず着用すること。
22. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に設定された場合は、それに従うこと。
23. ベンチ内で携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する処置は別に定め、運営委員に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

《タイブレーク実施細則》

(1) 特別規則

- (イ) 延長7回あるいは試合開始時間から1時間40分を超えて(いずれか早い方)決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいときは、以降の攻撃は一死満塁からの状況から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規の攻撃で完了した次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項の前の打者の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者とする。
- (ニ) この場合の打者および代走は認める。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式のものとするが、以下に掲げる事項に留意する。

- (イ) 投手記録
 - ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
 - ・完全試合は認めない。
 - ・無安打、無得点試合は認める。
- (ロ) 打撃成績